

# かえる通信 7

八浜中

9月28日（金）

「校務の業務改善マネジメントセミナー」  
（富山市）9/25.26 に参加して



働き方改革の本当の目的は

**教育の質を上げる！**

ことだった。

子どもたちのためなら

日本の学校は、諸外国と比較して学習指導だけでなく、生徒指導等広い範囲の役割を担っており、近年その役割が拡大しています。このままでは、教職員の疲労の蓄積により教育の質の低下を招く恐れがあります。

残業手当が出ているのなら

教職員には、職務の特殊性から時間外勤務手当等の制度は適用しないものとされており、長時間の時間外勤務を行っても残業手当は支給されず、その替わり一律に4%の教職調整額（月8時間相当）が基本給に上乘せされています。現在5人に2人が月80時間を超えて残業をしています。過労死時間オーバーです。

教職員の働き方の見直しは何のため

学校現場は教職員の情熱と献身的な努力によって支えられている面が多々あり、長時間勤務の状態が続くことにより、心身の健康を損ない子どもたちと真摯に向き合うことが出来なくなることがあります。また、教職員を志望する優秀な人材の確保が困難になることがすでに起こりつつあります。

業務改善が目的になっていませんか

業務改善とは何でもスクラップしたり、手を抜いたりすることではなく、必要などころに必要な時間をかけられるよう業務全体をデザインし直すことにあります。その業務は何のためにしているのかをよく考える必要があります。そのためには常に「学校教育目標」と、目指す生徒像に立ち返ることが大切です。時間は有限です。時間に対応した効果を考え、過度なデコレーション等は控えるようにしましょう。

## 答えは私生活にあった！

「教師が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことが出来るようになる」という理念が、働き方改革の本質です。「ワーク・ライフ・バランス」とは、てんびんではなくシナジー（相乗効果）であると言われています。私生活を大切にすることで仕事の質も上がるわけです。

### <ライフの要素は四つ>

- ①体を満たす時間・・・十分な睡眠と食事で集中力と活力が湧き、より濃い仕事出来る。
- ②心を満たす時間・・・一人で過ごしたり、新しい出会いにワクワクしたり、家族や友人と心からリラックスしたり遊んだりする自由な時間。これによりリフレッシュと人生への高い満足感が得られ、心をフル充電して教壇に立てる。
- ③頭を満たす時間・・・教員以外のサークルや習い事、教育書を読むなどの時間。業務としての研修ではなく、自分の時間とお金を使う学びの時間。
- ④その他の時間・・・育児や介護の他に、炊事家事、買い物、自分の通院などの時間。つい後回しにしたり、雑に済ませたりすることがある。この時間を丁寧に過ごすことで、生活が整い気持ちが整う。

### ～実践者の声～

「我が子と平日にお風呂に入るようになって、仕事での生徒たちへの声かけが変わった」

「教員以外のスポーツサークルでの会で、自分の考えや価値観・経験の狭さを痛感した」

「めいっぱい学校に残っていたときより、時間を区切って休んだり外の世界に出たりするようにしてからの方が、教員として良い仕事が出来ているように感じる」

教員同士が豊かなライフを持ち寄る学校では、素晴らしい化学反応が起こります。魅力的な先生が増え、学校全体としてもパフォーマンスが高まります。保護者の方々も、ライフを大切にし、人間として幅広い先生に我が子を預けたいと願っています。今が追い風絶好のチャンスです。1分でも早く学校を出てワークとライフの相乗効果を体験しましょう。